



工場環境監視計測システム

監視から防止へと公害行政が進められていくうえで、環境保全のためのデータは欠かすことができない。中でも重要なのは一つ一つの発生源からのデータであり、工場の公害対策も、県、市など自治体の公害防止も、その上に立つ施策といつてよい。

工場環境監視計測システムの測定対象は、燃料(重油使用量、イオウ分)、大気(イオウ酸化物、窒素酸化物、煤塵、風向、風速)、水質(排水温度、pH、溶存酸素、導電度、懸濁物、酸化還元電位、COD(Chemical Oxygen Demand)、油分、音(騒音)などで、その他必要なものが追加できる。またそのデータをデジタル表示装置によって

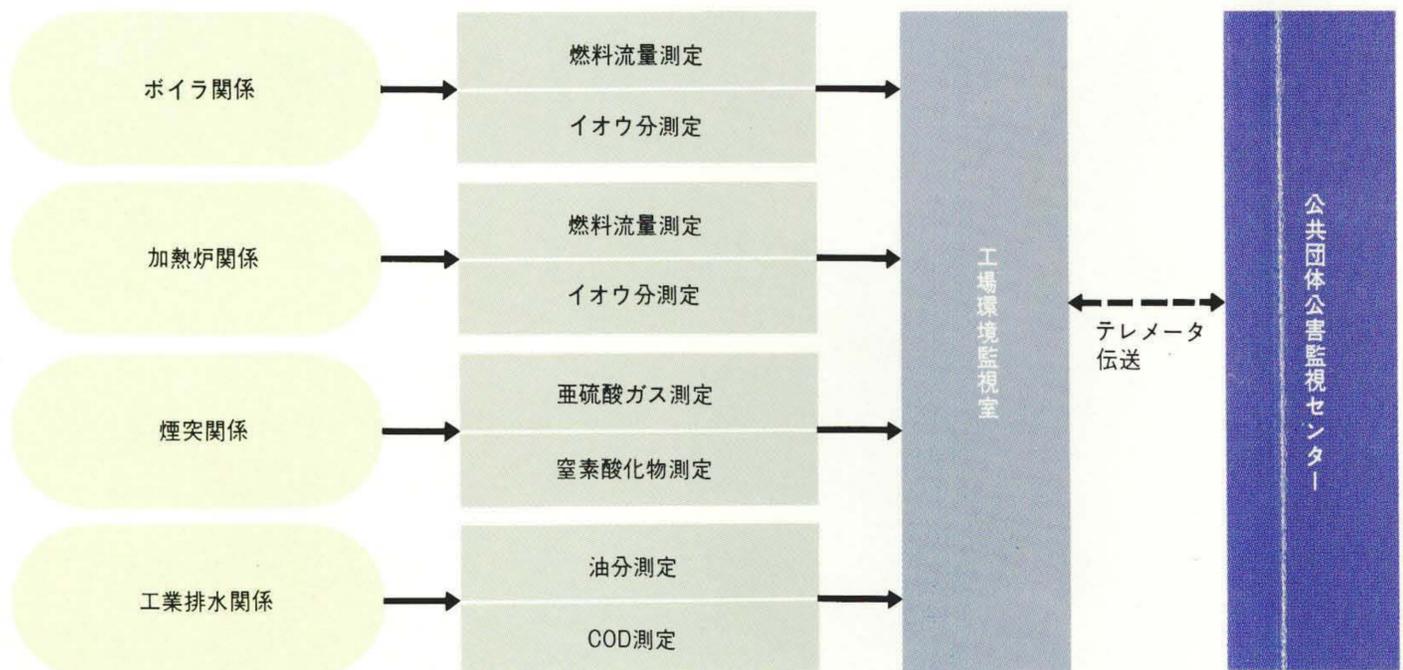
集中監視するものである。したがって、常に排出基準に則した諸設備の運転を行なうことができ、環境の保全が図られる。

また、工場から県、市の監視センターへ必要な各種データを伝送するケースが多くなってきているが、この場合にも、県、市から支給されるテレメータ子局へ信号を送ることができ、同様に監視センターから発せられる種々の指令に対して、すぐに適切な処置をとることができる。

本システムは、日立製作所独自の開発による超小形演算ユニットDSC-11形(演算処理部にワンチップCPU、プログラムエリアにROMメモリー、デー

タエリアにRAMメモリーを採用)を中心部に採用するなど、必要最小限のハードでまとめてあり、システム導入にも低経費で実現できるのが特色である。

本システムは、各種データの集中監視とともに、監視日報の自動作成および公共監視センターへのデータ伝送を行ない、また状況に応じて発令される監視センターからの指令、警報などを自動的に録音する。小形軽量で、耐環境性能にすぐれた本システムは、環境保全の第一線を守るのにきわめてふさわしいものである。



システム構成および情報の流れ